
ピエロに扮した時限爆弾

mmo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ピエロに扮した時限爆弾

【コード】

N9155E

【作者名】

mmo

【あらすじ】

壊れてしまって、ハイ、終わり。

時計が止まる。
音の出ない爆弾。
灰の舞い。
人が一人消えた。

中学の終わりの頃。

彼は脅迫じみた告白をしてきた。
ブスだの不細工だの陰険だの、
容姿や性格をけなしながら。

私は、

悪口や陰口、

いじめにはずいぶん耐えてきたので、
彼の話を、

初めから終わりまでちゃんと聞き、
愛の告白だとわかりました。

怒りの形相で私を見つめる彼に、
私は短く答えました。

「はい」

彼はいつも、
身近なものを手にとって、
投げつけたり叩き割ったりしていました。
私と一緒に歩く時でも、

石を見つければガラスに投げつけ、
棒を見つければ車を傷つけ、
何も無ければ足や手を叩きつけていました。
彼は、
『不良』
と呼ばれる人でした。

暴力を振るわれたことはありません。
私の顔が元々壊れているからでしょうか。
私に対してどんなに怒っても、
机や椅子を壊すだけで、
私には何もしてきません。

私に触れたことさえないので。

投げかけるものは罵詈雑言。
そしてモノに当り散らすのです。
花瓶が割れました、
ビンが割れました、
お皿が割れました、
粉々になりました。

彼の行動を、
私は止めようとはしません。
見ているだけ。
私がソツポを向くと、

彼はさらに大きなものを壊して、
子供のように奇声を上げるのです。
自分の存在をアピールしたいのでしょうか。
淋しがり屋なんではないかね。
自動販売機を叩き壊しながら、
「僕はここだよ」
なんてね・・・

私は怒った時はいつも、
彼のほうを見ないようにします、
大暴れする彼の破壊の音で、
彼が傷付くのが解るから、
嫌な女です。
不細工で太ってて性格も暗くて、
本当に嫌な女です。

彼は何かに怒り出し、
破壊します、
壊さずにはられないのです。
彼はブロック塀を殴りました。
流石の彼にも壊せません。
手から血が出てきました。
私はその気もないのに、
救いの手を差し出そうとしてしまったのです。
彼は怯え逃げ出しました。
数日もの間、
私に姿を見せようとはしません。
そして姿を現したときには、

傷がすっかり癒えていました。
元気に垣根を蹴り倒します。

私がもう少しキレイだったら。
キレイだったら。

彼は私を殴ってくれるのでしょうか。
壊してくれるのでしょうか。

傷を見せてくれるのでしょうか。
甘えてきてくれるのでしょうか。

キレイだったら。
ちくしょう・・・

イラつきます。
腹が立ちます。

そんな時、
私は彼を見ません、

背中越しから壊れていく音が聞えます。
彼が傷ついていく音が聞えます。

彼はタバコを吸います。

私にはおいも嫌いだし、
身体にも悪いので、

私はソツポを向きます。
すると彼は怒りだし、

タバコを吸うことをやめるのです。
彼の嗜好品まで奪おうとする、

彼を傷つけて喜ぶ、
私は本当に嫌な女です。

他の人から虐められる事がなくなりました。
いつも暴力的な彼がそばにいるから。
だから・・・

私の為にいつも怒っているの？

・・・

へっ・・・

私は何様のつもりなのでしょう。
くだらない事を考えてしまいました。

似合わない。

鏡は真実を映し出しません。

見ているのは自分自身なのでから、

目は人間に都合のいいものしか見えないんです。

彼の罵詈雑言、

悪口の中で映し出された私。

それが本当に私の姿・・・

でも人間の耳は都合のいい言葉しか拾えないんです。

今は少し彼のことを愛しいと思います。

私の部屋に呼ぶことにしました。

今だったら・・・

抱かれてもいいと思います。

・・・

へっ・・・

^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^

似合わない！ 似合わない！ 似合わない！ 似合わない！

ふざけんな！

うぜーよ！

最低だ畜生！

何様のつもりだ！

キモイんだよ！

頭おかしいんじゃないのかッ！

気狂い！

私なんか死んでしまえばいいんだ！

私もう少し、

ほんの少しキレイだったら。

部屋は、

似合わないぐらいにキレイにしております。

テーブルに灰皿を置きました。

彼はタバコを吸い始めます。

しばらくは二人とも無言でした。

緊張？

そんなもの私には似合いません。

腹が立ちます。

怒りがこみ上げてきました。

私はソツポを向きます。

すると当然のように彼は暴れだしました。

タンスが壊れる音が聞えます。

本が引き裂かれる音が聞えます。

服が破られる音が聞えます。

私はずっと時計を見ていました。

後5分したら振り向こう。

どんな顔をしようか・・・

笑顔？

似合わない。

けど、

彼は驚くんじゃないかな。

気持ち悪いって言ってくれるかな。

へへへへへへへへへへ・・・

ざまーみる。

後3分・・・2分・・・1分・・・

30秒

20秒

10秒

5秒

4秒

3秒

2秒

1秒

ばあ

テーブルをひっくり返し。

灰皿が宙を移動し。

タバコの灰が部屋中に降り注ぎました。

灰皿が私の笑顔に当たりました。

彼は驚きました。

うるたえ、

悲しい目をして、

逃げ出しました。

人が一人消え、

もう二度と出会うことはありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9155e/>

ピエロに扮した時限爆弾

2010年10月8日13時13分発行